

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況 (2)地域活性化総合特区 ③アジア拠点化・国際物流分野(4/4)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
未来創造「新・ものづくり」特区 (静岡県浜松市)	3.6	4.0 進捗度 ・産地力の強化 153% ・企業立地による地域産業の振興及び雇用の拡大 65%	3.3 規制の特例等 ・市街化調整区域への企業立地に係る農振法・農地法のガイドラインの弾力的運用 財政支援等 ・総合特区支援利子補給金 地域独自の取組 ・市独自の企業立地促進事業 ・耕作放棄地再生事業 ・企業立地奨励費 等	3.5	<p>・土地改良・整備事業等の事業が順調に進捗し、農業への企業参入が継続的に行われ、昨年に引き続き耕作面積も順調に拡大を続けている。これら本特区の農業振興の目標の基本部分で着実に成果が挙げられている点が評価できる。</p> <p>・一方で、農畜産物販売額を増やすための対策である、農商工連携・6次産業化による付加価値増加の効果がまだ見られないことの原因を明確にする必要がある。同原因を探ることにより、より確実なかつ目標以上の成果を達成できる可能性がある。</p> <p>・農業参入した企業による耕作面積については、過去の実績値でも目標値を上回っており、目標値を上方修正すべきではないか。</p> <p>・新規立地については、なぜ小規模な企業立地にとどまってしまったのかその理由を客観的に説明することが望まれる。新規立地に伴う雇用者数については、小規模な企業立地に加えて昨今の労働者不足も要因となっている可能性もある。</p> <p>・今後、新規に立地した企業が持続的に成長するか、特区全体で持続的・逡増的な生産増加が見られるかを注視する必要がある。</p> <p>・効果現出が大きいものと、なかなか出ないものの差が激しい。</p>